月刊保団連 2000 年 2 月号　より

# 北アジアに非核地帯を

IPPNW 北アジア大会に参加して

**保団連　理事　松井和夫**

昨年の 10 月 14 日から 2 日間、北京で第 2 回 IPPNW（核戦争防止国際医師会議）北アジア地域会議が開催された。中国、北朝鮮、韓国、日本の 4 カ国と、その他世界 6 カ国から約 200 名が集まり、日本からは「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者の集い」（以下「集い」）の 21 名を含む 59 名が参加した。大会は中華医学会と放射線医療・防護学会の後援で中国医学科学院医療情報研究所名誉所長のルー教授（Dr. Lu Rushan）が組織委員長。

大会では、最初に中国医師会副会長の Dr. Zong　Shujie が北京への歓迎の辞を述べたあと「すべての人間の健康を第一に考えなければならない。人的、自然の災害が世界中で多発している。その背景には貧困と社会の劣悪な環境がある」「健康と平和の目的を達する最善の方法はすべての戦争をなくすこと」であり「平和なくして健康はあり得ない」と安定した平和な世界を２1 世紀に実現しようと呼びかけた。

## 核兵器使用禁止と非核地帯の条約化をめざして

北アジアの核廃絶への動きとして、Michel　Christ 氏（IPPNW 事務局長）が「中国が核不使用を国連演説で公式に述べている」「アジア太平洋地域の多くの国が、１９９６年のＩＣＪ(国際司法裁判所)の核兵器使用違反決議に貢献した」「北朝鮮は文書で違法性を訴えた」などを紹介。また、９８年には国連総会で「核兵器の禁止条約促進を求める決議が圧倒的多数で可決されたが、残念ながら日本と韓国は賛成しなかった」と述べた。そして、核廃絶のステップとして「核の生産、使用、移動をすべて国際法で禁止」することが重要で、まだ条約はないが「政府間、非政府組織でこのような動きが活発になってきている」と語った。さらに、ＩＰＰNWの活動として「ＮＧＯその他の専門家の協力連合が９７年に条約の草案を出し、国連の正式文書として採択」されており、これを「正規の国際条約にしたい」と述べた。

Dr. Lu Rushan（中国代表）は「核兵器を持っているが、これ以上核実験はしない」「核保有国が核の先制不使用を約束し条約化することを繰り返し提案している」「NPT（核不拡散条約）や CTBT（包括的核実験禁止条約）を締結し、批准できるよう全力を尽くしている」などとのべた。

Dr. Kim Dong Chol（北朝鮮代表）は「北東アジアを非核地帯にする」ことを熱望しているが、安全保障のために「核の先制不使用が保障され」「アメリカの核の傘の下にいる国がこの地域からなくなること」が必要であると強調した。

金子熊雄教授（日本支部顧問）の「北東アジアの非核地帯構想」についての講演など多くの発言者が「北アジアに非核地帯を」と述べ、この条約化を実現させることが当面の一致した目標となっている。

## 北アジアから見た日本

北朝鮮代表は「日本の新ガイドラインや日米の戦域ミサイルシステム開発協力など、軍拡への動きが地域の軍事的バランスをくずす」と指摘。

その他すべての参加国から「新ガイドライン」や「憲法を改正して戦闘参加を可能にし

よう」とする日本の動きに対する危惧の念が表明された。
Dr Ron McCoy（IPPNW 共同会長）も日本の役割について「米国と結びついている臍の緒を断ち切り」「日本の憲法第 9 条の原則に立ち、それを広めることによりアジア及び世界の平和に貢献すべきである」と述べた。

## 朝鮮再統一への願い

各国の代表から、朝鮮の再統一への熱意を込め、分断の背景について以下のような意見が述べられた。
北朝鮮は「アメリカによる戦争の危機にさらされており、朝鮮半島自身が戦争をはじめるのではない」「朝鮮半島で再び戦争を繰り返してはいけない」。「核の生産、開発の凍結が必要」であるが、「ミサイルはアメリカの軍事同盟と渡り合うためのものであり、決して戦争を仕掛けるためのものではない」。
Dr. Myung Hwa Lee（韓国代表）は「米ソの対立によって大戦後分断された」「両国間で軍事対立があったからではない」「21 世紀には再統合されることを心から願っている」「いっしょになれば南北の経済格差は時間が解決してくれる」。
中国は「平和と安定が朝鮮半島で維持される」「両朝鮮だけの問題でなくアジアのすべての国民にとって重要な問題」と述べた。
また、中国の学生から「医者として再統一のために個人的に何をしようとしているのか」という質問があった。韓国は「我々はＮＧＯである。政府とは関係がない。ＮＧＯの果たすべき役割は難しい。具体的なプランはない。対話が大切で、再統一への第一歩である」。北朝鮮は「重要な問題。対話が必要である。外国からの圧力での解決でなく、平和条約が必要である。韓国に米軍が駐留している。2 国の間で解決しなければいけない」。中国は「中国は分断された２つの朝鮮に責任を持っている。対話を深めるしか道がない。ベストを尽くして仲介したい」と、それぞれ対話の重要性を訴えた。

## CTBT 批准をめぐる動き

Dr.John　Pastore（米国）は「米国で CTBT の成立や批准を妨害しているのは政治家達であり、米国の世論調査では８２％が CTBT 批准を支持。大多数は核実験の中止を望んでいる」「議員達は『核軍縮や核実験禁止についてもっとやりたいんだ』が、情報を知らされていない。ある上院議員と話をした後で、彼の上院での条約についての論争が放送されたが、条約を批准する側で演説しているのを TV で見たときは嬉しかった」と議員に働きかけることの重要性を強調した。さらに、「英国、カナダ、フランス、イスラエル支部、その他たくさんの国から E メールが政治家に送られており」「中国、日本そして両朝鮮の医師たちが CTBT を支持するという共同声明、各国の政府にホワイトハウスが前向きに取り組むよう働きかけるように強力なメッセージを送ると強力だし効果がある」「第２回 IPPNW 北アジア大会の名で各国の政府やアメリカ政府に送ろう」と提案した。

## 被爆者について

「朝鮮には５０年前に日本で被爆した人がたくさんいる。朝鮮、中国の中には心理的身体的後遺症に苦しんでいる人がたくさんいる。最近の食糧飢饉はさらに健康状態を悪化させている」などの発言があった。
広島大学の学生達は被爆の実相について発表。その中で「IPPNW の学生交換プログラムで、海外の医学生が被爆者と交流」「北アジアの学生とも同様の関係をつくりたい」と報告した。
長崎大学の学生達は被爆者のメンタルヘルスについて発表、被爆者の４０％が抑鬱に苦しんでいる実態を紹介した。

いずれも素晴らしい内容で、引き続き活発な討論となった。今後も彼らが積極的な活動を続けてくれることを大いに期待したい。

## 「集い」の活動

「集い」の莇昭三代表が「北アジア非核地帯の実現、核戦争阻止・核兵器廃絶をめざして」と題する約 20 分の講演を行った。その中で、氏は日本におけるヒロシマ・ナガサキからのアピール署名運動、非核自治体運動の展開、各県での「反核医師の会」の地道な運動などを紹介。また、①北アジア大会として各国政府および国連に対し、核兵器廃絶を中心とした国連軍縮特別総会の開催、国際法違反の確認と期限を切った核兵器廃絶条約の締結を求める、②各国で医師の反核運動への参加を図る、③アジアでの原爆被爆者の医療への取り組みの連係強化という３項目の提案をした。

さらに「集い」としては室生昇氏の「日本のおかれている政治状況について」のフロアー発言をはじめ、「沖縄から北海道まで、米軍基地をめぐって」「日本における非核自治体など反核の運動について」「核兵器をめぐる今日の日本の状況と私たちの基本的立場」など計 9 編の文書を会場で配布。その他交流に努めた。

恒例となっている原爆・被爆写真の展示、ビデオ、折鶴などのプレゼンテーションやアピール署名も行ったが、今大会では「集い」のために 1．5 時間のポスター・ビデオセッションが確保された。

## 北京宣言

最後に、今大会のまとめとして北京宣言が採択された。宣言では「朝鮮の平和的再統一への期待」「核保有国がすべての核兵器を高度警戒態勢から解除する合意に向けた交渉」「核兵器全廃の世界的条約締結に向けたさらなる取り組み」「アメリカの CTBT 批准を強く非難」するとともに「アメリカ国民が自国政府に働きかけるよう強く求める」などがうたわれた。この宣言が各国の反核組織によって、それぞれの国の政府に圧力をかける一助になることが期待されている。

## 今大会の特徴

今回の大会を振り返って、特徴的なこととして以下の６点を挙げたい。

**①北アジア非核地帯宣言の実現を。**核兵器廃絶に向けての現実的なステップであり、早急に実現しなければならない課題であることが再確認された。

**②朝鮮再統一への切なる願い。**朝鮮民族にとって再統一は切実な願いであることを改めて認識させられた。そして、緊張緩和から平和が、核廃絶が生まれる。

**③「集い」活動の国際的評価。**発言が予めプログラムにのるなど、私たちの反核運動が国際的にも公式に IPPNW の一員として評価されてきた。

**④日本の憲法第 9 条への注目。共同**会長のマッコイ氏が発言したように、今、日本の憲法が国際的に再評価され、憲法第 9 条を世界中にという機運が高まりつつある。我々としては、核兵器廃絶の立場からもこの素晴らしい憲法を世界に広めていくことが大切である。

**⑤　北朝鮮の参加。**前回の長崎大会には参加できなかった北朝鮮から、今回は 6 名が参加した。すべての国が集うことに意味がある。次回北アジア大会は北朝鮮が候補地に。大いに期待したい。

**⑥日本の軍事化に対する各国の不安。**北朝鮮をはじめ各国から日本の軍事化に対する強い懸念が表明された。世界が緊張緩和の方向に進んでいる中、何故日本が「新ガイドライン」をはじめとする軍事化を進めるのか？医師としても大いなる危惧の念を抱かざるを得ない。脅威を与えることよりも平和的解決が重要である。

## おわりに

テポドン騒ぎ、新ガイドライン関連法、東海村の臨界事故、韓国の放射能漏れ事故、CTBT批准をめぐる米上院での醜いかけひき、核保有国パキスタンでの軍事クーデターなど、特にアジア、北アジアの緊張が高まる中での大会。いずれも核戦略が関係した複雑な問題であり、どんな話が出るのか楽しみの参加であった。

大会での各国代表の発言は、核廃絶への熱意はよく理解できるが、建前や理想論が多かった。その国の状況「普通の医師が核兵器に対してどういう意識を持っているのか」「医師としてこれからどう運動をすすめていくのか」などをもう少し本音で、意見交換したいものだと思う。中国の「NGO の招致などしたい、政府にすべてをまかせるのではない」という発言に、今後を期待したい。

前述した中国学生の質問はよかった。こういった議論が相互理解を深め、平和への礎となる。また、「集い」の茨代表の話は具体的に踏み込んだ内容で素晴らしかった。

今、各国共通の、核廃絶運動を進める上で重要な課題は「どうすれば世論を動かし、政治家を動かすことができるか」ということ。すなわち、「頑なな政府の態度を変えさせるために何ができるか」ということである。もちろん、政府を攻撃することが目的ではない。しかし、実現のためには、政治的であらねばならないし、あらゆる戦略を駆使しなければならない。

地道な努力、小さなことを積み重ねることは重要である。しかし、一人一人の被爆の実相を伝える努力だけでは、高が知れている。例えば「他国の活動家たちに『その国で、被爆の実相を伝える』よう、いかに働きかけるか」「効率よく市民にアピールする方法は」など積極的な運動展開も必要である。そのために何ができるのか考えてみたい。一歩前進しよう。

最後に、素晴らしい会議を準備された中国の方々に心から感謝の意をささげたい。